

Weekly コラム

令和 2 年 3 月 31 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

CASE が BASE に！

2016 年にダイムラーの会長が言った CASE。これが今、自動車業界で非常に注目を集めており、100 年に一度の大変化と言われていますが一体どのようなものなのでしょうか？

CASE とは、C が車をインターネットに繋げるコネクティッドで、車に通信端末を搭載し、常に車外と情報をやり取りできます。A がオートノマス、つまり自動運転技術です。S が車をみんなで共有するシェアリング、E が電気を動力とする電動化で、ガソリン車から電気自動車やプラグインハイブリッド車に移っていくことです。この 4 つは、それぞれが独立しているのではなく、それぞれ繋がっているのが特徴です。例えば、自動運転は、1 台の車が単独で周囲を認識しただけでは、実現できず、カーブの先にある障害物や車線規制、死角となっている交差点からの自転車の侵入などの予測は車同士や信号機、道路上に設置されたセンサーから取得したデータをクラウドなどと接続して分析することで実現可能なのです。また、車がインターネットに接続されていることで、街を走る車の稼働状況がリアルタイムでわかるため、空いている時間や目的地を共有できれば、今のように大量の車は要らなくなり、シェアリングが一層進むことが考えられます。また、シェアリングは環境負荷の軽減などの効率的な車両を目指す電動化にも繋がっていくと考えられます。

この CASE が最近注目されている理由の一つには、車の位置付けが大きく変わってきている事が考えられます。

それが車を所有する時代から共有にする時代になってきているということです。それは、タイムズのカーシェアの伸び率を見れば一目瞭然です。また、17 年にスマホの普及率が 6 割を超えたことで、個人がシェアサービスを利用しやすい環境が整ったこともシェアリングの増加理由の一つです(SとC)。その他、環境規制や、センサーや半導体、ソフトウェアの進化により、自動運転と電動化が飛躍的に進んできていることも注目されている理由の一つです(AとE)。

ただ、自動運転とシェアリングによって自動車販売台数は、激減する可能性が考えられます。現在、25 兆円と見られる世界の自動車産業の税引前利益が 10 から 15 兆円に半減する試算もある程です。もし、これが現実的に起こるとすれば、自動車メーカーは、新しい道を模索しなければならなくなります。いち早くこの事態に対応しているのがトヨタで、CM でも放送されているようにスマートシティという街づくりに方向転換してきています。これが吉と出るか凶とでるかは分かりませんが、自動車業界がこれから大きく動いていくことだけは間違い無いのではないのでしょうか。今後の自動車業界から目が離せません。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。